

(29) 薬学教育における授業モデルの検討

薬学教育FD/ICT活用研究委員会は、22年7月、12月、23年1月、2月の4回開催し、学士力（モデル・コアカリキュラム）の実現に求められるICT活用の授業モデルの検討を行った。

薬物療法の専門家として社会に関与できる能力を確実に身に付けさせる授業モデルを2例とりあげることとした。

一つは、薬学教育に必要な基礎をeラーニングによって自己点検させ、ポートフォリオを用いて専門教育に必要な基礎的学習が確実に行われるように、ネット上でファシリテーターによる学びの支援を行う授業モデルとした。

二つは、卒業後も自分自身で知識・技能を発展させる能力を身に付けることができるようにするため、課題発見、課題探究、解決の取り組みに必要な判断力を高めるPBL学習を行い、その成果をLMS上の掲示板で発表させ、相互評価を通じて生涯に亘って自己研鑽する能力を目指す授業モデルとした。